

## Usage of Nouns and Noun Phrases

高橋直子

### 1. はじめに

大学における英作文指導において、学生達は名詞および名詞句の多様な表現を使う。それらの表現が意識的に使われたものか、あるいは単に偶然使われたものなのかの判断は困難だが、それらの表現が一般的な表現ではなくとも文法的であった場合には、そのまま読み流すのではなくそこでじっくり腰を据えて、なぜそれらの表現が文法的になるのかを分析する必要がある。このことは英語に限らず言語というものを教えている教員の誰もが経験することであろう。

通常あまり見慣れない名詞句を伴った表現をまず見てみよう。以下の(1a)の go to school を用いた表現は学校英文法の中で慣用句として指導されている表現であるが、その表現に似ている(1c)から(1h)の表現は果たして文法的に正しいのであろうか。

- (1) a. George went to school in Midland, Texas.
- b. George went to public school in Midland, Texas.
- c. George went to a school in Midland, Texas.
- d. George went to schools in Midland, Texas.
- e. George went to public schools in Midland, Texas.
- f. George went to the school in Midland, Texas.
- g. George went to the schools in Midland, Texas.

h. George went to the public schools in Midland, Texas.

一般に「学生として毎日（公立）学校に通う」という状況においては、(1a) や (1b) に見られるような *go to school* を用いた表現を使うわけであるが、英語話者に確認すると (1c) から (1h) までの表現も状況によって可能な表現だという。これらのような例外的に見える名詞句の表現にはどのような意味が含まれているのだろうか。

以下では英語の名詞および名詞句の多様な振る舞いについて考察していく。名詞は名詞句内で定冠詞や不定冠詞を伴って特定や不特定の事物をどのように表現するのだろうか。そして、一般に単数名詞の形で使われる名詞が、どのような場合に動詞と複数呼応するのだろうか、あるいは、複数名詞として表現される名詞の中で動詞と単数呼応できるものがあるのだろうか。また、数量詞を伴う名詞は文の文法性にどう関わっているのだろうか。このように名詞及び名詞句の多様な使い方を以下で考えていく。

なお、ここにおけるデータは、名古屋外国語大学英語教育学科の英作文の授業を通して実際観察できたもの、久野暁・高見健一（2008, 2009）と Takahashi（1996）の議論から得られたもの、また独自に作成したものを提示する。

## 2. Go to school/Go to the hospital/Play the piano

まず、上記の (1) の文の解釈を分析してみよう。(1c) から (1e) の文にある表現は、学生として学校に毎日通っているのではなく、たとえばセールスマンが何か用件があって学校施設に訪問した場合に使われる。(1c) なら訪問する学校を一つ選んだ場合、また (1d) と (1e) では、訪問する学校が不特定に複数存在した場合に表現される。

一方 (1f) から (1h) は、学生として学校に通ったという意味と、ある用件があって学校にある日訪問したという意味と、両方の意味が解釈できる。その内、(1f) はその学校施設が特定されている場合、あるいはテキサ

スのミッドランドに学校が唯一一つしかないという場合に可能な表現だという。そして (1g) と (1h) は、通学したあるいは訪問した学校が複数でありかつ特定されている場合に使うことができる表現である。

さらに、(1h) の *George went to the public schools in Midland, Texas.* という表現の意味を分析すると、さらに少なくとも4つの解釈が含まれているという。

一つ目に「ジョージは『ある特定』の学校数校に通った」という解釈、二つ目にジョージは「『プライベート』の学校に行ったのではなく、『公立』の学校に行った」という解釈、三つ目に「テキサスの他の場所の学校ではなく、『ミッドランド』という場所の学校を選んだ」という解釈、そして四つ目に「ミッドランドの『図書館や他の場所』ではなく『学校』という施設に通った」という解釈である。

*go to school* に似た表現として *go to church* という表現があるが、*go to school* も *go to church* も基本的に定期的活動をするためにその場所に通うという概念があり、*go to church* は *go to school* を含んだ (1) の文と同じ様な振る舞いをする。つまり *go to church* の中の *church* という表現は名詞句の中で冠詞と共起することもあれば可算名詞としても表現できるのである。

次に *go to the hospital* と *play the piano* という慣用句に関連した表現を見てみよう。この二つの表現が *go to school* と異なるのは、定冠詞の *the* を通常伴っていることである。またこの慣用句の中の *hospital* と *piano* という表現は一般的に単数である。しかし、英語話者によると *go to the hospital* や *play the piano* に変化を加えた以下のような表現も可能であるということである。

- (2) a. John went to the hospital.  
b. John went to the hospitals.  
c. John went to hospitals.  
d. John went to a hospital.

e. \*John went to hospital.

「病状を医者に診てもらったために病院を訪れた」という場合は、(2a) の go to the hospital が一般的な表現であるが、幾つかの病院に検診に行ったとしたら、(2b) のように hospitals という複数形も可能である。また、(2c) にあるように、定冠詞 the を伴わなくても go to hospitals という形で hospital が複数形で表現できる。この文はたとえば「製薬会社に勤めているジョンが、病院に薬の宣伝のために幾つかの不特定な病院をセールスで回った」という解釈ができる。さらに (2d) のように不定冠詞 a を伴って go to a hospital という表現も可能である。John went to a hospital which was recommended to him. という状況なら全く問題ない。一方、(2e) のように通常可算名詞になる hospital が the も a も伴わない場合は文が非文になる。

また、go to the hospital という表現が go to school と異なるのは、学校と違って通常定期的な活動を目的として病院には通わないということである。英語話者によると、自分で病気の治療に行くと決めた場所に通うのであるから定冠詞の the を伴うのが自然なのだという。

では、play the piano という表現はどのように変化することができるのだろうか。play the piano はある場所への移動は示唆してはいないが go to the hospital と同じように振る舞うことができると分析できる。

- (3) a. John played the piano.  
b. John played the pianos.  
c. John played pianos.  
d. John played a piano.  
e. ?John played piano.

「ピアノを演奏する」という場合は、(3a) の play the piano が一般的な表現であるが、(3b) のように通常弾いているピアノが複数ある場合には play

the pianos というように piano を複数形にすることも可能である。John plays all the pianos in the music store. と行った状況があれば問題なく使用できる表現である。また、(3c)にあるように、定冠詞 the を伴わなくても play pianos という表現で pianos が複数形で表現してあれば定冠詞は伴わなくてもよい場合がある。たとえばピアノを演奏しながら歌うことで有名な歌手のエルトンジョンがアメリカツアーで各地を演奏して回る時に、行った先々でいろいろなピアノを弾くことになった場合には可能な表現である。さらに、(3d) のように不定冠詞 a を伴って play a piano という表現も可能である。これは沢山ピアノがあって、その中の一つを選んで弾いてみたというような状況で表現できる。

一方、(3e) の the も a も伴わない John played piano. という文の文法性はかなり低くなる。piano は道具としての楽器という概念が強いので、piano が不可算名詞として用いられる John played piano という表現はしっくりこないというわけである。

しかしながら、久野・高見 (2008:21) は実例として以下の例を示している。

- (4) a. Lonnie played guitar and his daddy and brother played violin.  
b. Anyone who plays piano knows that is no great feat.

これに関して久野・高見 (2008) は、楽器に the が付かないケースはその楽器の弾き方を知っていると、職業としてその楽器を演奏しているという意味があるとしている。この場合は piano は普通名詞ではなく抽象名詞的に使われているのかもしれない。

このように go to school/go to the hospital/play the piano などの表現は慣用句として覚えるだけでなく、名詞句を変化させた形が存在できるということを知っておく必要がある。

### 3. 名詞の可算と不可算

名詞には単数複数両方の形で使うことができるものが多数存在するが、以下の例に示すように、名詞が普通名詞として振る舞うのか抽象名詞あるいは物質名詞として振る舞うのかに関してもよく考慮する必要がある。

- (5) a. John is taking ten classes this semester.  
countable
- b. John was late for class today. (The expression of "classes" is also OK.)  
uncountable
- (6) a. English is an international language.  
countable
- b. Language is an invention of human beings.  
uncountable
- (7) a. Soybeans are a low calorie food.  
countable
- b. We try to keep eating healthy food.  
uncountable
- (8) a. Fruits are very healthy.  
countable
- b. There are many ways to eat fruits/fruit.  
countable/uncountable
- c. We ate much fruit.  
uncountable

- (9) a. Mary has many kinds of skills.  
countable
- b. John has much skill in the field.  
uncountable
- (10) a. We work to have a better life/better lives.  
countable countable
- b. Overhunting is related to wasting the lives of whales.  
countable
- c. Life for physically-challenged people is not convenient.  
uncountable
- (11) a. I bought a cake for my friend's birthday party.  
countable
- b. I ate a piece of cake.  
countable

これを踏まえて、英作文のための文法指導では以下のように名詞を選択する問題を作成している。名詞が可算名詞にも不可算名詞にもなる場合に、動詞句内において可算名詞と不可算名詞のどちらがそれぞれの動詞句において相応しいのか、正しい解釈が必要となってくる。

- (12) a. You have (egg/\*eggs) on your mouth.
- b. John used (\*egg/an egg) to make sunny-side-up.
- (13) a. I like (chicken/\*a chicken) better than beef.
- b. I saw (\*chicken/a chicken) in the garden.

- (14) a. We use (apple/\*an apple), carrot, lettuce, and cucumber to make the salad.  
b. John eats (\*apple/an apple) a day.
- (15) a. Is there (room/\*a room) for me in the car? (久野・高見 2009:66)  
b. I want (\*room/a room) of my own in the house.
- (16) There are (a variety/\*variety) of reasons why people abandon their pets.
- (17) There is (a certain number/\*certain number) of people who can speak English.
- (18) a. The law could succeed in improving the situations of women in (society/\*societies).  
b. There are different (\*society/societies) in the world.
- (19) a. Only women give (birth/ \*a birth).  
b. Mary has (\*difficult birth /a difficult birth) when her baby was born.

(18a)や(19a)は通常可算名詞として使われる society や birth が慣用句的に不可算名詞として使われている例である。これは go to school や go to church の中の名詞 school や church が不可算名詞的に使われる場合と類似する。

そして、例の中で見られるように、名詞を抽象名詞や物質名詞として捉えれば、冠詞を伴う必要がなく複数としても表現しないが、物質名詞なら質量を表す表現を伴う場合が勿論ある。一方、普通名詞として扱う場合には明確に単複の区別をしなくてはいけない。このように日本語の名詞には見られない振る舞いをする英語の名詞に関しては、より繊細な文法知識が必要になってくる。

#### 4. 名詞句と動詞の呼応

次に主語としての名詞句と動詞の呼応についてユニークなケースを幾つか紹介する。久野・高見(2009)は、以下のような名詞句が、主語あるいは主語の一部として動詞と呼応する際には、名詞句と動詞の呼応に注意を払わなくてはならない場合があると述べている。

##### 4.1 複数呼応名詞(久野・高見 2009)

(20)に示す名詞表現は単数の事物ではあるが、常に複数名詞として使われるものである。

- (20) (i) pants, briefs, panties, tights, bloomers, breeches, jeans, overalls  
(ii) scissors, tweezers, clippers, tongs  
(iii) glasses, binoculars, goggles

These scissors need/\*needs sharpening. (久野・高見 2009:6)

同じように、(21)が示す名詞表現はその下の例文が示すように、goodsは商品という意味であるが、表面上複数形の形をしており、その複数形と動詞が呼応するので、areは可能だがisは用いられない。

- (21) dishes, refreshments, groceries, clothes, goods, leftovers, supplies, valuables, covers, greens, humanities, belongings, furnishings, proceedings, arms, troops, surroundings, contents

The goods are/\*is being sold in the market.

一方、(22)の名詞の例は一般に一つの対になるものとして使用する事物であり、数量詞が伴えば(22a)のように単数呼応する。しかし数量詞

が伴わない場合は対になるものであっても、(22b) が示すように主語 *these shoes* に対して動詞は複数呼応する。

(22) shoes, boots, slippers, sandals, socks

a. The pair of shoes is/\*are very expensive.

b. These shoes \*is/are very expensive.

#### 4.2 単数呼応名詞 (久野・高見 2009)

次に表面的には複数形であっても、単数として振る舞う名詞の例を挙げる。これらは動詞と単数呼応する。

(23) the United States of America, the United Nations, the Balkans, the Netherlands

The United Nations was /\*were established in 1945.

(24) billiards, cards, checkers, darts, dominoes

Billiards is/\*are a game which is popular among us.

(25) measles, hives, mumps, rabies

Measles is/\*are one of the dangerous diseases.

(26) news

The news is/\*are really good news.

- (27) linguistics, semantics, physics

Semantics is/\*are the subfield in linguistics that is/\*are devoted to the study of meaning.

- (28) phonetics, mathematics, politics, statistics, ethics, acoustics

- a. Phonetics is/\*are one of the subfields in linguistics.  
b. The phonetics of English look/\*looks very similar to the ones of Japanese. (phonetics は音声体系という意味なら複数呼応は可)

また以下の名詞は日本語に翻訳すると可算名詞と解釈されがちな名詞群である。これらの名詞は単数の不可算名詞として扱わなければならない。

- (29) furniture, baggage, clothing, poetry, machinery, jewelry, stationary

- a. I bought two pieces of furniture in Nagoya.  
b. \*I bought two furnitures in Nagoya.

- (30) trash, garbage, rubbish

We took out much trash/\*many trashes.

#### 4.3 単複同形の可算名詞 (久野・高見 2009)

以下は単数形と複数形の形が同じであり、単数を表す数量詞も複数を表す数量詞も名詞と共に起できるという例である。

- (31) crossroads, barracks, headquarters, means, series, species

My company has a/one/two/many headquarters in New York.

- (32) cattle, people, police

I saw one/five/many/much cattle.

#### 4.4 類似した表現を持つ名詞

次の例は意味が類似する名詞のペアであるが、一方は可算名詞、もう一方は不可算名詞になる語群である。特に(33)のようなケースはどう異なるのか注意を払う必要がある。

- (33) nutrients vs. nutrition

- a. People who are sick need to get \*many nutrition/\*more nutritions/  
much nutrition.  
b. Older people need many nutrients.

- (34) bags vs. baggage/luggage

- a. We have to be careful about our baggage/\*baggages.  
b. Mary has many bags.

### 5. 節の中の名詞句

第4節では名詞と動詞の呼応について考察したが、ここで再度名詞句が節(文)の中でどういう解釈を受けているか考えてみよう。また、節内での名詞同士の関係について考える必要がある。つまり節内の主語としての

名詞句と動詞の呼応関係、そして名詞同士の意味と数の一致を吟味する必要がある。

- (35) One of my friends who (is/\*are) a boy (has/\*have) a girlfriend.
- (36) a. English is (a language/\*language).  
b. (Language is /\*Languages are) an invention of human beings.
- (37) Soybeans are (a low calorie food/\*low calorie food)
- (38) We have the right to choose our own (partner/\*partners).
- (39) (Each person /\*each people) has (their own idea/their own ideas) about same-sex marriage.
- (40) a. More than one student (has/\*have) failed the final exam.  
(久野・高見 2009:37)  
b. More students than one (\*has/have) failed the final exam.
- (41) a. Many a member (has/\*have) protested against the proposal.  
(久野・高見 2009:42)  
b. Many members (\*has/have) protested against the proposal.
- (42) Japan has (a culture/\*cultures), and England and Germany also have (\*culture/cultures).

以下の(43)の例は解釈によってどちらも選択可能ないうケースである。

- (43) a. We could bring our own (bag/bags).  
b. We usually use our own (bicycle/bicycles) to go to the place.  
c. The earlier pupils study English, the better their listening\_ and speaking (abilities /ability) will be.  
d. If I die, I would surely want my organs to be used to save (another life/other lives.)  
e. Introducing English in Japanese elementary (school/schools) is a very good idea.

さらに、以下の例は名詞を並列させて、動詞と単数呼応するケースである(久野・高見 2009:43-45)。これらについてはひとつひとつ覚える方が無難であろう。

- (44) a. Problem after problem arises in the use of this machine.  
b. Student after student led in. Each time he was introduced as one of the most brilliant students of either math or physics in the entire United States.  
c. Test after test has been done.  
d. One speaker after another was complaining about the lack of adequate sanitation.  
e. The coach as well as the player was so happy with the result.  
f. Not only you but also I am wrong.

しかし久野・高見によると(44e)と(44f)の場合は以下のように複数呼応することもできるということで注意が必要である。

- (44) e'. The students as well as their instructor are happy with the textbook.  
f'. Not only John but also Justin are college students.

## 6. 名詞の複数表現と場所格交替

最後に場所格交替の中でどのように名詞句が振る舞うのか観察してみよう。場所格交替とは動詞の直接目的語と前置詞の目的語としての名詞句が以下のように交替するという現象である。

- (45) a. Bill loaded hay onto the wagon.  
b. Bill loaded the wagon with hay.

Takahashi (1996:25-26) は、場所交替において動詞句内の直接目的語と前置詞句内の名詞句の前に数量詞を付けると、場所交替の文法性に揺れが出てくると述べている。これは文全体の文法性を判断するには、定冠詞などが示す意味だけでなく、名詞句内で表される質量が事象を起こすのに適量でなくてはいけないということを示している。

- (46) a. Bill loaded ten bales of hay onto five wagons in five minutes.  
b. \*Bill loaded ten bales of hay onto five wagons for five minutes.

- (47) a. Bill loaded five wagons with ten bales of hay in five minutes.  
b. \*Bill loaded five wagons with ten bales of hay in five minutes.

- (48) a. Bill sprayed two cans of paint onto walls in five minutes.  
b. ?Bill sprayed two cans of paint onto walls for five minutes.

- (49) a. Bill sprayed two walls with two cans of paint in five minutes.  
b. (\*)Bill sprayed two walls with two cans of paint for five minutes.

上記の例のように、事象が示す活動に対して質量が適量であれば文は成立するが、適量でなければ文は成立しない。このように名詞に伴う冠詞や、

名詞の単数複数にこだわるだけでなく、質量も名詞句の文法性に大きく関係していることを記しておく。

## 7. まとめ

これまで幾つかの例を見てきたように、英語の名詞は名詞それぞれが固有の意味を持つだけでなく名詞句、前置詞句、動詞句、あるいは節の中でその状況に合わせて形が変化する。このように名詞を取り巻く環境をじっくり考えてみると、名詞の表現が多様に振る舞う背景には何か深い意味があるということが読み取れる。

名詞の基本表現を確認すると同時に、多様に変化する名詞の表現に注目して分析してみると、学生達の英語学習および教員の英語指導を充実させる鍵になるであろう。

## References

- 久野暲・高見健一. 2008. 『謎解きの英文法：冠詞と名詞』 くろしお出版.  
久野暲・高見健一. 2009. 『謎解きの英文法：単数か複数か』 くろしお出版.  
Takahashi, Naoko. 1996. Quantificational and inherent telicity of locative verbs. MA thesis. Michigan State University.